

兵庫県立美術館 2009 年度コレクション展

コレクション名品選

小企画 山本六三展 - 幻想とエロス



山本六三《イカロスの夢》1989年 個人蔵

- 会場 兵庫県立美術館常設展示室
- 主催 兵庫県立美術館
- 会期等 2009年12月12日(土)～2010年3月14日(日)
- 休館日 月曜日休館 (ただし1月11日<祝・月>は開館し、12日<火>休館)
年未年始(12月31日、1月1日)
- 開館時間 午前10時～午後6時(入場は午後5時30分まで)
特別展開催中の金、土曜日は夜間開館 午後8時まで(入場は午後7時30分まで)ただし1/2を除く
- 観覧料金
一般 500(400) 300 円/大高生 400(320) 240 円/中小生 250(200) 150 円
()・・・団体料金 ・・・特別展とのセット割引
兵庫県内の小中生はココロンカードの提示により無料
障害のある方とその介護の方1名は各観覧料金の半額
兵庫県内在住の65歳以上の方は一般料金の半額

このプレスリリースについてのお問い合わせ

兵庫県立美術館

〒651 0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 学芸員 服部 正・岡本 弘毅

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

本展の見どころ

兵庫県立美術館では1年に3回の「コレクション展」を行い、館蔵品を中心に様々な展示を重ねてきました。今回のコレクション展では、当館が所蔵する代表的な作品を紹介するとともに、阪神・淡路大震災15周年を記念した震災をテーマとした作品を特別に展示しています。さらに、同時開催の小企画「山本六三展 - 幻想とエロス」にちなんで、戦後の具象絵画や神戸画壇、幻想的なモチーフを描いた海外の版画作品などを集中的に展示しています。

<展示室1> 「コレクション名品選～戦前・戦中の洋画」

<展示室2> 「震災と美術」

震災時の様子や出来事に取材した作品や、震災後に震災をテーマとして取り組まれた作品を紹介しています。

<展示室3>

その1「戦後の具象絵画と神戸画壇」

その2「コレクション名品選～戦後の抽象美術」

<展示室4> 「幻想版画の系譜」

<展示室5> 「コレクション名品選～海外の近現代彫刻」 / 「安藤忠雄コーナー」

小磯良平記念室 金山平三記念室

<展示室6> 小企画「山本六三展 - 幻想とエロス」

神戸の地で独自の頹廃美に彩られた幻想的な作品を作り続けた山本六三（やまもと・むつみ 1940-2001）の全貌を、作家秘蔵の油彩画や代表的な銅版画で紹介します。

関連行事

座談会「山本六三 人と作品」

共催：「芸術の館友の会」

日時：平成22年2月14日（日）午後2時30分～4時

場所：当館レクチャールーム

出演：アルフォンス・井上（銅版画家）、戸田勝久（画家）

聞き手：岡本弘毅（当館学芸員）

入場無料（先着100名）

学芸員によるギャラリートーク

日時：平成21年12月20日（日）コレクション名品選について（服部正・当館学芸員）

平成22年1月24日（日）山本六三展について（岡本弘毅・当館学芸員）

いずれも午後2時30分から（約45分）

場所：常設展示室（要観覧券）

こどものイベント「アートな凧を作ろう」

日時：平成22年1月9日（土）

対象：兵庫県内在住・在学の小中学生とその保護者

申し込み制・有料：受付開始12月19日（土）午前10時から

詳しくは078-262-0908（こどものイベント係）まで

ミュージアムボランティアによるガイドツアー

会期中毎週金・土・日 午後1時30分から（約45分）

展示内容

展示室1「コレクション名品選～戦前・戦中の洋画」

明治初期から第二次大戦中までに描かれた日本の洋画を、人物、風景などのテーマ別に展示し、その変遷をたどります。



飯田操朗《朝》1935年



神中糸子《はるの像》1894年頃

展示室2「震災と美術」

2010年1月17日は、1995年の阪神・淡路大震災から15年の節目となります。ここではそれを記念して、震災時の様子や出来事に取材した作品や、震災後に震災をテーマとして取り組まれた作品を紹介しています。



西田真人《瓦礫の街》1996年 寄託作品

展示室3

その1「戦後の具象絵画と神戸画壇」

この展示室の前半では、具象絵画に焦点を絞って展示しています。抽象的な表現が主流となる戦後の現代美術界で独自の具象表現を追求した美術家たちの作品や、戦後の神戸画壇で金山・小磯の後の世代の具象的傾向の画家たちの作品を紹介します。

その2「コレクション名品選～戦後の抽象美術」

展示室の後半では、1950年代以降の抽象美術を、サンパウロ・ビエンナーレなどで国際的に活躍した美術家や、吉原治良を中心に関西で前衛的な活動を展開し、国際的な評価を獲得した具体美術協会の作家を中心に紹介します。



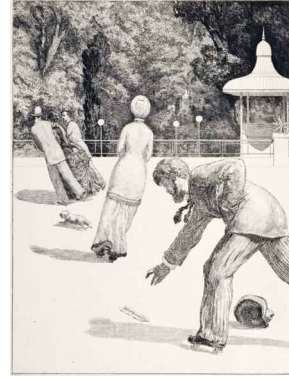
田村孝之介《黒い扇子》1949年

展示室4「幻想版画の系譜」

当館のコレクションの中心を占める版画作品の中から、19世紀末の象徴主義的作品や20世紀前半のシュルレアリスム、戦後のオーストリアに現れたウィーン幻想派など、幻想的なモチーフを描いた西洋版画を展示します。



オディロン・ルドン『聖アントワ
ーヌの誘惑』より 1896年



マックス・クリンガー
『手袋』より 1881年

展示室5「コレクション名品選～海外の近現代彫刻」/「安藤忠雄コーナー」

当館の収集の柱のひとつである彫刻から、西洋近現代の作品を展示します。また、展示室の東側では、震災後の文化復興のシンボルである当館の建築設計を担当した安藤忠雄による様々な震災復興プロジェクトを、建築模型や映像などで紹介します。



メダルド・ロッソ《新聞を読む男》1894年

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平（1903-1988）は、近代洋画を代表する巨匠の一人です。的確なデッサンとやわらかな色使いの、気品に満ちた人物画で知られています。この記念室では、画壇への実質的なデビュー作となった《T嬢の像》や、戦時中に描かれた《斉唱》などの代表作を中心に展示し、小磯作品の魅力を紹介しています。

金山平三記念室

神戸生まれの金山平三（1883-1964）は、風景画の名手として知られる近代洋画の巨匠です。信州や東北をはじめ日本各地を写生に訪れ、落ち着いた色使いと巧みな筆さばきで、日本の風景を生き生きと描き出しました。この記念室では、《大石田の最上川》などの代表作をはじめ、金山の作品を展示して、その画業を顕彰しています。



金山平三《大石田の最上川》1948年頃

山本六三展 - 幻想とエロス 展示室6

今回のコレクション展では、同時開催の小企画として「山本六三展」を開催しています。山本六三（やまもと・むつみ 1940-2001）は、中央の画壇や既存の美術団体から距離を置き、神戸の地で独自の類廃美に彩られた幻想的な作品を作り続けた孤高のアーティストです。公立美術館として初めての個展となる本展は、ファンにはお馴染みの銅版画や油彩画の代表作から、これまでまとまった形で紹介されることの少なかった初期作にいたるまで総数約80点を一堂に展示、以下の4つの章で異端の画家の全貌に迫ります。

1 模索の時代 初期油彩画

美術に目覚めた高校時代から二十代前半にかけて、若き日に描かれた知られざる作品群の一端を紹介します。



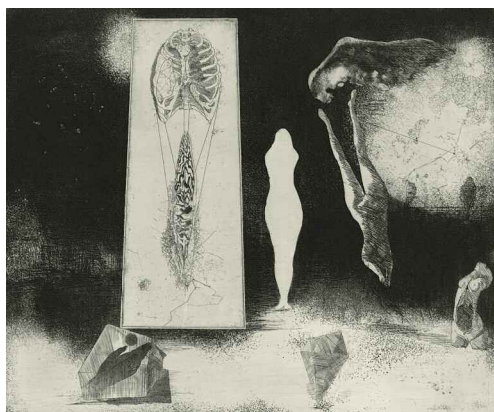
《壊れた舟》1960年 個人蔵



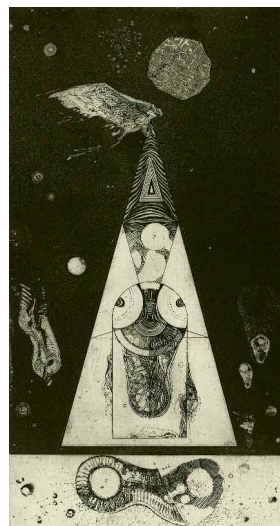
《火の鳥》1962年 個人蔵

2 シュルレアリスムへの接近 初期銅版画

山本にとって大きな転機となった東京・銀座の養清堂画廊での個展の出品作など、1969年前後に集中してつくられたシュルレアリスム色の濃い銅版画を展示します。



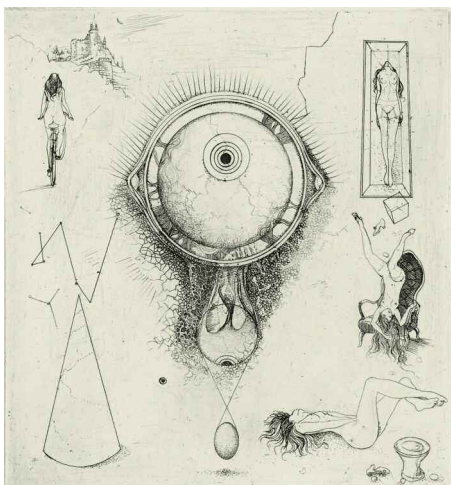
《不在》1969年 個人蔵



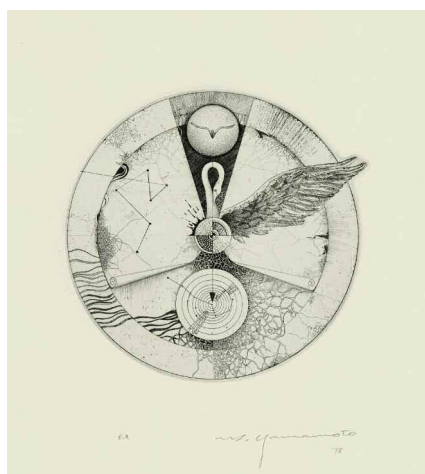
《無用者の化石した夢》1969年 個人蔵

3 文学との二重奏 中期銅版画

仏文学者・生田耕作の翻訳で奢瀨都館（さばとやかた）から刊行されたジョルジュ・バタイユの『眼球譚』をはじめ、書物のために制作された70年代前半の銅版画を特集します。



《眼球（G.バタイユ『眼球譚』飾画）》
1973年 個人蔵



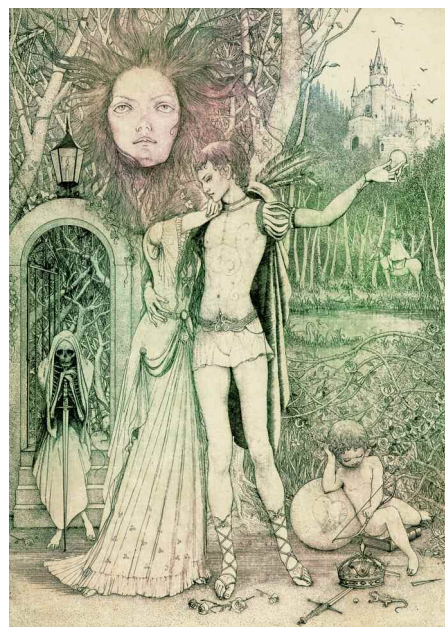
《吉田一穂『白鳥』飾画》
1973年 個人蔵

4 ファム・ファタールの末裔 後期油彩画と後期銅版画

70年代半ば以降晩年に至るまでの山本のイメージを代表する、妖しく謎めいた女たち。画家の後半生に生み出された油彩画や銅版画の傑作を紹介します。



《スフィンクス》1984年 個人蔵



《ペレアスとメリザンド》1978年 個人蔵